

これがオススメ! 読み聞かせ本

中・高学年向き

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんのお本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

4月の「1年生を迎える会」で、6年生から1年生に「びゅんびゅんごま」をプレゼントするのが私の学校の恒例になっています。びゅんびゅんごまを作っている6年生は、どの子も真剣です。自分の手作りのごまが1年生の手でうまく回ってくれるか、こまの色は気に入ってもらえるか等々、6年生になったひとつの関門だと思っているかもしれません。「1年生のころプレゼントされた物を、5年後に新しい1年生にプレゼントする」この伝統は生き続けています。プレゼントされた1年生の教室でもそれぞれの「びゅんびゅんごま」にまつわる思い出が作られています。この本は実体験にプラスされて、どの子にも受け入れられるのです。内容・絵、ともにすばらしい名作です。この本が生ま

れてから30年！ どの子にも出会ってほしい本です。登場人物もきらきら輝いています。子どもたちの生き生きしている姿！ 誰から見てもあこがれの校長先生！ 最後の場面での全校朝会のなんとさわやかなことでしょう。こんな朝会をもてる学校は宝物だと思います。

読み語り中に出てくる「竹馬」「草笛」などを体験した子は思い出して嬉しそうでした。草花でかんむりなどを作った子も多く、読み終わった後で遊びの交歓もあちこちで起こっていました。

残念ながら都会の学校は、この絵のような自然に恵まれていません。でもよく見れば、狭いところにもけなげに生きている生き物はたくさんいるのです。そんなことまで教えてくれる本です。これからも読み続けていけるおすすめの一冊です。



びゅんびゅんごまが まわったら

宮川ひろ／作
林明子／絵
(童心社)